

つまりぼーと

(一社)十日町市中魚沼郡医師会 会報
第47号 平成27年1月発行



「狐塚の棚田」

新潟県労働衛生医学協会十日町検診センター
センター長 室岡 寛

一般社団法人 十日町市中魚沼郡医師会

巻頭言	1
性教育出前講演を引き継いで	3
平成 26 年度第 1 回十日町地域医療連携協議会	6
平成 26 年度十日町市総合防災訓練	8
地域医療研修コーディネーター育成事業報告	9
十日町地域産業保健センターの NEW FACE	14
平成 25 年度十日町地域産業保健事業実績報告書	15
平成 26 年度 十日町市中魚沼郡学術講演会 及び研修会の開催報告並びに予告	16
事業報告	19
吊辞	23
お知らせ・編集後記	27

《表紙解説》

平成 11 年、松之山天水越にある「狐塚の棚田」が農林水産省の「日本の棚田百選」に選ばれました。選ばれた頃とは形が変わり、整備された棚田ではあるが、その風景は日本の自然 100 選にふさわしい。



巻頭言

医療法人社団 本町クリニック
院長 高橋 修一

「巻頭言」という言葉を聞くとすぐ思い出すのは新潟大学時代の同級生のF君のことである。飲み会の席で幹事の挨拶が終わるとおもむろに立ち上がり「巻頭言！！！！」と大声を張り上げて朗々と弁じ始めるのです。「春宵一刻値千金、春爛漫の時、今宵ここに集いし我が同胞よ大いに語り大いに論じようではないか。酒は飲むべし黒田節、女は抱くべし虞美人を」以下延々と続き最後に「Ein,Zwei,Drei」で乾杯となった。九州男児だったので黒田節はわかるが何で虞美人なのかはよくわからない。大方世界三大美女の一人の名を借りたのであろう。そんな彼も風の噂では既に鬼籍に入ったとか。諸行無常のことわりか。

我が青春は楽しかった。昭和39年高校2年生の時、新潟国体、新潟地震、新幹線開業、そして東京オリンピックがあった。昭和41年に大学へ入学したがこの年、米国で大学紛争が起こりそれが日本中に飛び火して大学紛争のまっただ中に突入していくことになる。時々授業は全共闘に占拠されて中止になり我々ノンポリはよく麻雀教室へ通ったものである。昭和42年にビートルズがやって来た。大学受験生時代はラジオの大学受験講座を聞いていたが休憩時間に流れた「抱きしめたい」にしばれた。少し前にエレキの神様ベンチャーズブームが起こりあちこちで素人バンドの演奏会があつて夢中で追っかけしたものだ。ベンチャーズはよほど日本が好きなのかいまだに来日して往年のファンをしばれさせている。「青春デンデケデケデケ」(1992)という映画があるが何回見ても楽しい。そして私は見に行けなかったがビートルズは今や伝説になった。学校の音楽の教科書に載っているのだからベートーベンやモーツァルトに匹敵するクラシック音楽家となった。「ビートルズがやってくるヤァ!ヤァ!ヤァ!」(1964)は古典である。大学4年の年(1969)に安田講堂事件が起こり東大入試が中止。私は悪友に誘われ一度だけ沖縄返還デモにヘルメットをかぶって参加したことがある。新潟の大通り「榎谷小路」を行進したが規則違反のジグザグデモに入ったとたんに機動隊が飛び込んできてなぐるけるの暴力の嵐。ちょっとでも手出しをすると公務執行妨害で引き抜かれて滅多打ちされた。「いちご白書」(1970)はアメリカの学生運動の映画だが学生運動家のバイブルになった。荒井由実の「いちご白書をもう一度」はビリーバンバンが歌って大ヒットした。大学6年生卒業試験のまっただ中に札幌冬季オリンピックが昭和47年2月3日から2月13日まで開催。日の丸飛行隊の勇姿や可憐なジャネットリンのフィギアに

釘付けになり閉会したと思ったら、2月19日軽井沢であの連合赤軍の「あさま山荘事件」が勃発した。2月28日大きな丸いコンクリートの塊が山荘を砕く映像は今でも鮮明に脳裏に焼き付いている。総括と称して12名の仲間をリンチ殺人したあのおぞましい連合赤軍の話は「実録・連合赤軍あさま山荘への道程」（2008）として記録されている。いろいろあったが無事に卒業できて現在に至っている。

さて日本人は終戦直後の1947年から1949年にかけて空前絶後の大増殖を行った。堺屋太一の言う「団塊の世代」である。3年間で806万人もの仲間がいる。（平成24年の新生児は103万人）同世代は同じ思いを持つ。それは同じ感性の時代に同じ現象を共有したからだ。だから団塊の世代が持つ思い出の量は圧倒的に多い。日本中の思い出の半分くらいを占有している。数の力で昭和の歌謡曲第1位はいつも「高校三年生」だ。集団就職で金の卵とおだてられお国のために無我夢中で働いてきた「団塊の世代」は今その任務を終えて老境に入ってきた。ゆっくり老後を楽しんで手厚く国から年金をもらえらると思っていいたらとんでもない肩すかし。まだまだ休めそうもない。今日もまた朝から仕事だ、どっこいしょと。（2014,12,7）

（医師会入会：平成11年4月）



「性教育出前講演を引き継いで」

医療法人社団 たかき医院
仲 栄美子

生まれ育った十日町へ戻ってきてから、もう丸七年が経とうとしていきます。思い返せば2007年の年末に帰郷し、翌年の1月1日から両親と一緒にたかき医院で仕事を始めるぞと準備していた矢先に、母から「母校の十日町中学校に性教育に行かない？」と声を掛けられたのが、この講演活動を始めるきっかけでした。

もともこの性教育出前講演は、今から30年以上前、母が中里村に住んでいた時代に、近隣の小学校5～6年生に性教育をしてほしいと依頼があったところから始まったそうです。その後、遠くは湯沢町にまで依頼されれば都合がつきさえすれば母は足を運び、あちこちの小学校～高校に至るまで講演を行っていたようですが、私が田舎に戻ってきたことをきっかけに、「年齢の近い人から話した方が話が伝わるだろう」という母の考えで、私に講演のバトンが渡されたのでした。

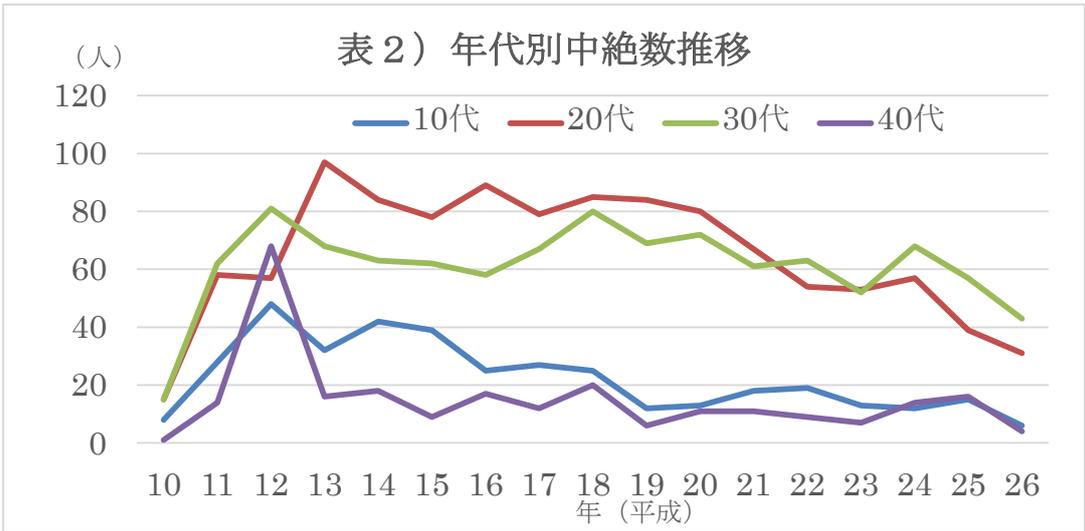
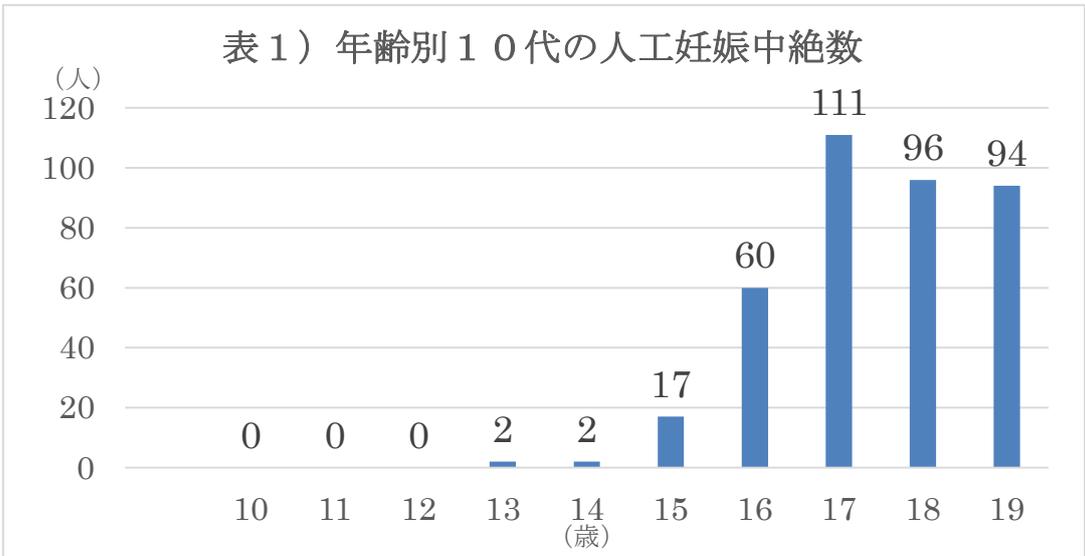
はじめは母校のよしみで主に十中の3年生相手に毎年1回話をしていましたが、2年くらいしてから、新潟県の教育委員会主催の性教育研修会において「地域の専門家と連携した効果的な性に関する教育の進め方」をテーマのシンポジストとして（偉そうに経験も未熟なのに）呼んでいただき、出前講演の実際をお話しさせていただいたところ、翌年から講演依頼が徐々に増え、現在では年間約15件、十日町・津南だけでなく小千谷、南魚沼、柏崎などからの講演に呼んでいただくまでになっております。

主にお話ししている内容は、小学生では卒業直前の6年生に「男女の体の仕組み、二次性徴（月経・射精について）、妊娠」について、中学生では主に3年生に「小学生に話している内容+人工妊娠中絶、避妊、性感染症」について、高校生では「特に人工妊娠中絶、避妊、性感染症に関しては具体的な事例を挙げて」について、です。最近はこの他に、中学生には「インターネットの問題点、性同一性障害」、高校生には「デートDV、妊娠適齢期」などを追加してお話ししています。

これらの講演を行う上で私が大事にしていることが二つあります。一つ目は「大切なことは何度でも繰り返して伝えること」です。現在、馬場小・水沢小・水沢中学校では、「小さいころから継続して行う性教育」を計画実践しており、中学校説明会の前に馬場小・水沢小6年生合同性教育（子供とPTAそれぞれに）講演を行い、さらにその子供達

も知識のない方が多いことにびっくりしてしまうことがあるため、小さい時から正しい知識・生きていくために覚えていてほしい知識を繰り返し伝えていかないといけないと感じています。

二つ目は、「命や体を大事にすることを考えさせる」です。ここで、たかき医院が開院して以降行われた10代の人工妊娠中絶の年齢別件数のグラフ（表1）をご覧ください。これを見ていただくと分かる通り、中学生になると途端に妊娠や中絶が現実のものとして目の前に立ちはだかります。もしも中学生で妊娠した場合、たいていの親御さんたちは、子供が中学生で妊娠した時に、そのまま妊娠継続し出産し育児をするということがどれだけ困難な道を歩むかが分かっているのですが、中学生自身は妊娠した時（させた時）に産む（産んでもらう）と産まない（産んでほしくない）の意見を聞くと、答えは半々です。私は産む（産んでもらう）場合に起こりうることと産まない（産んでほしくない）場合に起こりうることを両方説明し、その上でもう一度自分たちで答えを考えさせます。どちらをとってもリスクがあること、妊娠は望んですることであり、望まない妊娠は色々な不幸を招くことになることをお話しします。そして、皆さんのご両親はあなたが生まれてくるのを心待ちにしていたこと、お母さんは命がけであなたを産んで下さったこと、そのあなたは何にも代えがたい世界でたった一つの宝・奇跡だということを伝えています。こうして現在は主に10代の人たちを中心に性教育講演を行っていますが、私が本当にその講演と一緒に聞いてほしいと思っている人たちは、実はその親御さんたちです。たかき医院開院からの年代別人工妊娠中絶数の推移のグラフ（表2）を見ていただければ分かりますが、10代の中絶は年々数が減ってきているのですが、30代・40代の中絶は全く数が変わっていません。10代の人たちの親の世代がこの調子では、10代の人たちを正しく指導していくことができないと私は思っています。なので、これからの若者たちの性を守っていくためには、若者たち自身だけでなく、どうやってその親たちを指導していけるのかにかかっていると考えています。（話はややそれますが、妊娠適齢期である20代のもったいない中絶をもっと減らしていきたいとも思っています！）今後どれだけ活動していけるかは分かりませんが、地道な草の根活動がいつか大きく花開くこと、すなわち無用な中絶が減り、性感染症を予防でき、たくさんこの十日町・魚沼地域に子供が産まれること、につながっていけばいいなと思いながら、また明日からの講演活動一つ一つを大事にしていきたいと思っています。



平成 26 年度 第 1 回十日町地域医療連携協議会

十日町地域医療連携協議 会長 富田 浩

11 月 13 日(木)に平成 26 年度第 1 回十日町地域医療連携協議会を開催しました。この会は平成 23 年度に当医師会の発案で前医師会長池田先生のもと、地域の医療・介護・福祉について、行政や地域医療に関係する団体が協議する場として立ち上がりました。会を通じて、当医師会が地域医療に必要と考えたことを具体化しようとしてきましたが、3 年間に経過して、実際にどのように進んで来たのかを振り返りたいと思います。

1 つ目は**災害時医療対策**です。3 代前の高橋会長の時に、中越地震の義捐金を基に災害時医療体制の整備をしようという話が出ましたが、立ち消えとなりました。しかし、中越沖地震や東日本大震災および長野県北部地震を経て、地域における災害時医療のルール作りや訓練の必要性が高まり、新潟県による災害医療コーディネートシステムの導入や、十日町市と協力して日本医師会が要請する JMAT による災害時医療派遣(池田前会長が出動)に参加しました。しかし、未だに当地域の災害時医療対策は整ったとは言えない状態と思われます。

2 つ目は**休日一次救急のセンター化**です。県内 16 医師会の中で、休日一次救急を在宅輪番制のみで実施していたのは十日町市中魚沼郡医師会だけでした。数々の検討を経て、昨年度から十日町市立国保川西診療所を利用したセンター化の実証試験が開始され、収支や県立十日町病院救急外来への影響の検証が進んでいます。住民サイドへのアンケートも近々行われる予定です。少ない医療資源を生かすことと、住民ニーズに答えることを両立させるには、県立十日町病院周辺でのセンター開設が最善であることに異論はないと思われ、責任者である行政からの、早期の今後の指針の提示が待ち望まれています。

3 つ目は**医療と介護・福祉の連携**です。国の施策である在宅医療推進の動きに呼応して、いち早く山口義文副会長を中心に十日町地域在宅医療連携協議会（とおかまち地域ケアネット）が立ち上がりました。種々の講演会や研修会が企画実行され、医療と介護に関わる他職種による連携は着実に進んでいます。前々会長田中先生の時に、医師会の中で施設や在宅での看取りを助けあうシステムを作ろうという話が起こりました。地域医療再生基金の追加に基づく在宅医療のモデル事業にも応募して採用され、制度の確立と ICT を利用したツールの開発を進めています。また、国が創設した新たな財政支援制度にも積極的に事業案を発信しています。

4 つ目は**住民・医療従事者の啓発や研修事業**です。地域医療再生基金を利用した、地域医療研修医の受入れと研修医による学校・保育所での禁煙授業や車座講話、住民の医療参加促進のための講演会、医療従事者のためのスキルアップ研修会などを行って来ました。地域医療再生基金事業が終了した場合、行政と協力してどのようにこれらを引き

継いで行くかも今後の検討課題ですし、地域医療魚沼学校が提唱するように、行政や各団体が行っている同様の講演や啓発・研修活動を有機的に結合する試みがより必要になると思われます。

最後に、**県立十日町病院や魚沼基幹病院をめぐる魚沼圏域の医療再編**に関しては、残念ながら、当地域では医師や看護師不足はより深刻化するものと予想されます。今後魚沼基幹病院では地域連携委員会が理事会の諮問機関として立ち上がり、当地域からも行政代表と医師会や各病院から委員が参加しますが、信濃川筋の中核病院としての十日町病院の未来を考えるための同様の協議の場があってもよいのではと思われます。ただし、実際は県立病院のままだと難しいかも知れません。

当日の協議は、医師会、歯科医師会、薬剤師会、十日町保健所、十日町市、津南町、県立十日町病院、町立津南病院からの委員の出席を得て開催されました。協議事項の**(1) 新たなる財政支援制度に係る事業**については、当医師会が十日町市とともに提案した在宅医療 24 時間支援のための拠点整備が、事業区分②の在宅医療介護サービスの充実のために必要な事業の中に組み込まれることが、10月29日に行われた新潟県郡市医師会長協議会で県の福祉保健部副部長から説明があったことを報告しました。地域医療再生基金追加分をもとに、現在十日町市と進めている施設と在宅における看取りに関するモデル事業も、基金終了後もこの新たな財政支援制度に引き継がれると思われます。今後はモデル事業を市・町の全域に広げることや、とおかまち地域ケアネットを通じてモデル事業で開発する ICT ツールを、各施設や訪問看護ステーション・ケアマネージャーとの連携を強化するためのシステムに発展させて行く方針も確認しました。

協議事項**(2)十日町地域災害時医療対策**については、先に提示した十日町市中魚沼郡医師会災害医療行動マニュアル(案)を参考にして討議されました。大災害は近々必ず発生するという危機感を持って、行政および各団体で独自のマニュアル作りを急ぐことと、各マニュアル案を持ち寄って、最終的には保健所が中心となって整合性を持った全体の災害医療指針を作ることを目指して、担当者によるワーキンググループの会合を年度内に持つことを決定しました。その他にも、薬品や資材の確保、保管、更新を誰が、どこで、どのように行うかという点と、災害医療に特化した訓練を計画的に開催する案が示され、さらに介護や福祉の分野も含めた指針作りの必要性も討議されました。医師会としては他地域への日本医師会災害時派遣(JMAT)に、市町および薬剤師会からの協力を仰ぎたい旨を要望しています。

協議事項**(3)平成 27 年度休日一次救急診療**については、市から川西診療所休日一次救急センターの上半期の実績について報告がありました。受診者数は 1 日平均 39.4 人と前年同期より 5 人増となっています。これには今年 4 月までインフルエンザが流行していた影響もあると思われますが、実際に県立十日町病院救急外来を受診する内科・小

児科患者数が減少しているという報告があり、センター化の意義が認められています。当医師会および薬剤師会から今後について早期の方針提示を望む声が上がりました。現在十日町市は県立十日町病院になるべく近い場所にセンター開設のための用地買収を進めているが、まだ情報公開はできないとのことで討議は進みませんでした。当医師会は、行政の責任において首長に早く近い将来にセンターを開設することを地域住民に明らかにして欲しいと要望し、来年度も在宅・センター併用方式で休日一次救急診療に協力する旨を表明しました。

協議の後は、各団体より報告や告知事項があり、最後に十日町地域振興局健康福祉部長、松田連携協議会副会長のご挨拶で閉会しました。次回は来年3月頃に開催の予定です。

平成26年度十日町市総合防災訓練

10月19日(日)に、平成26年度十日町市総合防災訓練に参加してきました。

中越地震から10周年となる今年は、被災により得た教訓・経験などを風化させず、防災意識のさらなる高揚を図ることを目的に、当地域で中越地震の震源に最も近かった下条地区の十日町市立下条小・中学校を会場として訓練が実施されました。「午前7時50分、中越地方を震源とするM7.8の地震が発生し、十日町市では最大震度6強を、各支所では震度5強を観測した。この地震による被害は十日町市下条地区が特に大きく、家屋が倒壊し、火災や降り続いた雨の影響で土砂災害が発生している。また、停電などにより、ライフラインはほとんど寸断された状態である。」との想定のもと訓練が始まりました。当医師会は山口医院 院長 山口孝太郎先生に御協力を頂き「多数傷病者応急処置訓練」に参加しました。

現在、当医師会でも大災害発生に備え、災害時の行動を整理した指針作りを進めております。医師会として適切な行動が出来るような「災害時行動マニュアル」を早期に完成させたいと願っています。



◆ 地域医療研修コーディネーター育成事業報告 ◆

今年度は下表のスケジュールで研修医の先生方(4名)を受け入れ致しております。
今年度も保健・医療・福祉・教育機関の他、多岐にわたり大勢の皆様にご理解いただき御協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

【平成 26 年度地域医療研修事業 研修医一覧表】

No.	受入月	研修医氏名	指導機関 (指導医名)	所属機関
1	7月	田邊 真希	町立 津南病院 (佐野 浩斎)	東京慈恵会医科大学
2	10月	久穂 尚子	山口医院 (山口孝太郎)	東京慈恵会医科大学
3	9月	深澤 寧	町立 津南病院 (藤川 透)	東京慈恵会医科大学
4	10月	村木 國男	富田医院 (富田 浩)	東京慈恵会医科大学

十日町での地域医療研修を終えて

東京慈恵会医科大学附属病院
研修医 2 年目 真島 清実

10月の1ヶ月間、十日町で開業をしていらっしゃる先生方の元でお世話になりました。

研修では、主に外来を見学させていただきました。先生方は、ご専門でない分野も診察し、消化管専門でも、整形外科や泌尿器に至るまで、全て一人で診られていることに大変驚きました。東京では、すぐに専門の診療科に依頼してしまうような症例もあり、全ての診療科が毎日院内や近隣の病院にいるわけではなく、また、紹介しても基幹病院の場所が遠いことの大変さを改めて実感しました。

往診に同行させて頂く機会も何度かありました。雪の降る季節は往診も骨が折れるとこのことで、先生方のご苦勞が偲ばれると共に、一人ひとりの患者さんを大切にする姿勢に頭が下がる思いでした。また、乳がんや胃がんなどに対する検診のフィルムの読影を勉強させていただく機会もありましたが、医療機関や医師が少なく、高齢化も進んで患者の通院が難しくなりつつある十日町では、東京よりも一次予防の意義が大変大きいのではないかと感じました。自分は、大学病院の研修中には、産婦人科はローテーションしないのですが、今回の実習で、初めて赤ちゃんを取り上げたり、新生児や妊





婦さんと接する機会を与えていただき、大変感動し、また良い経験ができたこと、感謝申し上げます。実習後の after 5 には、釣りなど遊びに連れて行って下さったり、ごちそうして下さった先生方もいらっしゃり、毎日が本当に楽しい十日町ライフでした。

介護老人福祉施設での実習も大変有意義なものでした。入居されている方々が、普段の生活と同じ毎日を過ごせるよう、プライバシーに配慮し、木造のインテリアであるなど、こだわりを持って作られている施設は、興味深いものでした。

十日町で強く感じたのは、医療や福祉事業に携わる 20 代～30 代の若者が、非常に高齢者に対して温かく優しいということでした。仕事における義務的なものではなく、利用者の方々に向けられる自然な笑顔がとても印象的でした。ある従業員の方にお伺いしたところ、3 世代で暮らしている方もまだ多く、その方もお祖父様とお祖母様も同居され、身近に親しい高齢者がたくさんいらっしゃるからなのではないかとのことで、核家族化が進む東京との違いを実感しました。

東京での臨床研修の 1 年半は、自分なりに頑張ってきたつもりでしたが、患者さんやコメディカル含めた人に対する思いやりや優しさが欠けていたのではないかと今強く感じております。全ての人に、違った人生や大切な家族があり、医療はそれを尊重し、手助けすることであると、十日町での研修で実感しました。今回学ばせて頂いたことを、今後の診療や患者さんとの関わりで活かしていく所存でございます。

ご厚意で一ヶ月という長い期間お貸し下さった自転車で、雨の日以外は毎日十日町を走り、車で通り過ぎると見逃してしまうような町並みや地域の方々の暮らしを少し垣間見ることができたのではないかと感じております。

一つ一つの研修施設での実習期間が 1 日～5 日と短いにもかかわらず、先生方から心のこもったおもてなしを頂き、各病院、診療所を去るときには、一期一会という言葉を何度もかみしめた実習の日々でした。

いつか、自分も微力ながら十日町に恩返しさせて頂きたいと思っております。最後になりましたが、十日町市中魚沼郡医師会会長の富田先生を始め、諸先生方、病院や診療所スタッフの方々、医師会の方々には、大変お世話になりました。様々なことを勉強させていただいたと同時に、楽しい毎日でした。心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。（平成 25 年 10 月）

十日町での地域医療研修を終えて

東京慈恵会医科大学付属病院
研修医 2年目 永峯 翔太

今回、十日町で地域医療研修を終え大変多くのことを学ぶことができました。また、大学病院だけの研修では経験出来ないようなプログラムも多く組んでいただきました。

外来を担当する機会もいままではそれほどなかったのですが、この一か月の研修で多くの時間を外来に費やすことができ非常に充実していました。かぜ症候群の診断や胃腸炎に対する処方など common disease への対処法は今まで曖昧にしていたところが多く、今回の研修はそういった疾患を診療するうえでの重要な点を確認する良い機会となりました。季節や地域による疾患の特徴があることも気付くことができ、その特徴を理解することが今後の診療をしていくうえで重要であると感じました。今回の研修のなかで、検診で異常を指摘され精査したところ早期の胃癌が発見された症例が複数あり、検診の重要性を知るとともに地域で検診の受診率を上げていくことが癌の早期発見に有用であると再確認しました。

診療以外にも地域には医師の役割が多くあることにも今回の研修で気付くことができ、実際に経験もできました。西小学校での禁煙の健康教育では、児童達がみんな真剣に煙草の基礎知識や喫煙の健康被害について学習しており、授業もやりがいがありました。今回授業した禁煙以外にも薬物や性教育など健康教育のテーマは多く、小学生のうちに教育しておく方が効果上がるのではないかという印象を受けました。また川治保育園での子供の救急と事故についての講義でも、多くの保護者が聴きにきておりその関心の高さに驚きました。自分にとっても小児救急を学ぶ良いきっかけとなり、今後の診療に活かせる知識を学ぶことができました。また、医師として臨床の場だけでなく、こういった健康教育にも今後参加していきたいと思いました。

今回の地域医療研修では、高齢者の介護の問題が大きなテーマの一つでした。特別養護老人ホームに行き、主治医意見書を書かせていただいたのも初めての経験でした。被介護者の診察をし、現症を正確に記載することや、施設の方から話を聴き環境が及ぼす影響を把握することは困難であったが、意見書を書く上でのポイ



ントを学ぶことができました。また、訪問看護や通所介護、高齢者体力事業の研修を通して診療以外の高齢者医療の現場を経験することができ、そこに多くの他職種の方が関わっているということも大学病院で研修しているだけでは気付くことのできない点でした。保健所研修でも、同様に多くの職員の方から地域医療と行政の関わりについて講義していただき、医師として働く場所は臨床以外にも様々あるのだと知ることができました。



今回の研修では、研修先の先生方や施設のスタッフの方、医師会の方々に大変お世話になり、感謝すると共に今回の研修で学んだことを大学に戻ってからの研修に活かしていきたいと考えています。十日町は自然が豊かで食べ物も美味しい物が沢山あり非常に魅力的な地域でした。次は十日町雪まつりなど観光で訪れようと思っています。(平成 25 年 12 月)

「地域実習を終えて」

東京慈恵会医科大学付属病院
臨床研修医 九穂 尚子

1 か月という期間はあっという間に過ぎてしまいました。1 か月前に十日町駅に着いた時は、知らない土地での実習に、とても不安がいっぱいだったことを覚えています。

今回の実習では、開業医の先生方の元で実習させていただき、大学病院とはまた違った研修ができたため、とても勉強になりました。慈恵医大病院では専門が細分化されており、診断された疾患はその専門の科に任せてしまうことが多いのが現状です。研修医はその科を回らなければ経験できないことも沢山あります。そして、ある程度病態が安定すれば、common disease は患者さんの近医へお任せしてしまいます。大学病院本院にいと、高度医療が主で、なかなか地域に密着した医療をみる機会がありませんでしたので、日々の外来診察や訪問診療、休日救急センター等を通して地域医療に携わることが出来て良い経験になりました。

近年“医師が不足している”“医療崩壊がおこるかもしれない”ということが叫ばれています。恥ずかしながら、今まではあまりそのことに関して実感がありませんでした。十日町に来て、各科の専門医が必ずしもいるわけではないということを知りました。



たかき医院では数人のお産に立ち会わせていただきました。赤ちゃんの生まれてきた瞬間のお母さんの顔がとても輝いており、とても素敵な時間に立ち会えたことに感動しました。しかし、安全に出産できる場が少ないのが現状だということを教えて頂きました。特に南魚沼でお産ができる病院は限られていたり、皮膚科等のマイナー科は常勤医がいない病院もあるため、十日町だけでなく、南魚沼の地域全体から患者さんが来ていることに驚きました。加えて、NICUを持つ病院は県内に数件しかないため、NICUが必要な妊婦は1時間以上かけて搬送しなければならないという事実も衝撃的でした。必要があればすぐに専門医に紹介できる環境にいるありがたさを実感しました。先生方が幅広い分野の医療を提供しながら日々頑張っておられることで、地域の医療は守られ、そして、地域医療が守られているからこそ、大学病院で高度医療が提供できているのだと思いました。

小学校での「たばこについて」の講演や、みさと苑での老健・介護についての実習では病院実習では経験できないような体験ができました。小学生に対して講義することは初めてだったので、小学生に興味をもってもらえるようにプレゼンテーションすることは難しかったですが、皆真剣に聞いてくれて、積極的に授業に参加してくれたおかげで楽しい時間が過ごせました。スライドに使用していた写真が衝撃的だったようで、気分が悪くなってしまう子供も中にはいましたが、たばこについてしっかりと理解してくれたと思います。終了後の感想では、「たばこはすわない」「家族の人にも今日の授業の内容を教えてあげる」といった声もきかれました。小学校の先生方も喫煙されている方もいらっしゃるようで、授業が終わった後に「頑張って禁煙します」と言いに来てくださった先生もいました。小学校での授業で私が驚いたことは、小学生の素直な質問です。「大人はたばこは有害と言うけれど、なぜたばこを製造するのか？」という質問を受け、うまく答えられませんでした。子供の鋭い視点に感心しました。

みさと苑や介護認定審査会では“介護”の視点を重点的に実習をさせて頂きました。病院から施設に患者さんを送ることはよくありましたが、実際に施設やデイサービスでどのようなことをしているのかということを知らなかったのも、介護やリハビリテーションの現場や介護認定会・施設入所認定会に参加させていただき、今後自分が主治医になった時に、介護の視点も踏まえて意見書作成や診療していかなければならないと思いました。



気が付いたら地域実習も終わってしまいました。普段とは異なる実習とおいしいごはんやお酒、温泉や紅葉などの観光もできて、とても楽しかったです。そして、十日町に来て、女子医大の大先輩がおいくつになられても第一線で元気に働いていらっしゃる姿を拝見し、私も後に続けるようにもっともっと努力しなくてはいけない、と刺激を与えて頂きました。今回の実習で学んだことを今後の医師としての道に活かして精進していきたいと思っています。お忙しい中、私の実習のためにお時間をさいて頂き、本当にありがとうございました。(平成26年10月)



地域研修感想文

東京慈恵医科大学付属病院
臨床研修医 2年 深澤 寧

11月新潟は秋から冬へと変わる時期にあった。越後湯沢駅でバスを待つのはさほど苦にはならなかったが、津南には冷たい雨が降っていた。“研修中に初雪を見ることができるかもしれない”と聞いた。バスからは、私の出身地である松本の光景、特に山裾の地域と重なる部分もあるが、家屋には2階にある玄関、板張りになった外壁、付属する銀の小さなカナディアンハウスの様な車庫、道には大きな側溝、融雪装置、縦に配列した信号機、これら異質な要素が目立ち、雪が無くとも豪雪地帯であることが窺われ、本格的な冬になれば1週間以上も湿気を含む重い雪が降り続くことがあると容易に納得できる風景が広がっていた。

津南地域では年間出生数が急速に減少し60人を割り、保育園、教育機関の統廃合が進もうとしている。一方で独居する超高齢者が増え続け、町立津南病院には老人福祉施設を数年待つ老人がいる。典型的な少子高齢化は、豪雪地帯であると言う風土と相まって、より深刻な状態にあると感じられた。雪が降れば、車の運転が出来ない事はライフラインを絶たれることに繋がる。雪が無くとも、玄関前の階段でさえ障害となる。

ケアマネージャー業務を見学させて頂く機会があった。90代で配偶者を亡くし独居となった老婦人宅へと向かい、今年の冬を乗り切る為のプランを提示する場面、どのように普段の生活を成り立たせているのかを伺う事が出来た。本来なら冬季、施設利用等するためにも生活保護を受けることが妥当であるが、今までの年金の貯蓄があるために、生活保護は受理されず、貯蓄を切り崩し、生活保護が受理されるようになるのを待っているとの事であった。生活保護を受けるには貯蓄が10万円以上あってはならないのだと言う。前回の審査では19万程度の貯蓄があったとのことである。このような話があるのだろうか。本当に特殊な例であったのかもしれない。しかし、この話を聞いた後、それほど違和感を覚えることは無かった。

奇しくも、11月にはアベノミクスに失敗した内閣が衆議院を解散させた。これは、民主党の行った世論調査により、現段階の総選挙であれば大敗を喫することは無いとの感触を得た為であるとの見方もある。私にとって選ぶ対象の無い選挙を12月に迎えることになる。この解散総選挙には800億円程度が費やされるそうである。このような状態を造り出しているのは、我々であるのだから、即座に先程の話と対比するのは間違っているのであるが、随分羽振りの良い話だと思わずにはいられない。完全に間違っている。

研修の間にこの疑問についての回答を得ることはできなかった。しかし、このような問題が多く地域に存在すると身をもって感じる事が出来た。

最後になりましたが、津南地域において、御指導御鞭撻を下さった皆様に心よりの感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

1ヶ月間、とても早く感じる事が出来る研修でした。私自身の勉強不足、力不足により、抱いた疑問に関する回答を得るに至らないことも有りましたが、大変充実した時間を過ごす事が出来たように思います。津南で得ることができた感触は、これから私が行う仕事において、必ず大きな意味を持つようになると考えています。(平成26年11月)

…………… 十日町地域産業保健センターの NEW FACE ……………

★登録保健師★ 大口 洋子さん



十日町地域産業保健センター登録保健師の大口洋子と申します。

これまで行政の保健活動に従事してまいりましたが退職し、現在は町立津南病院で臨時職として働いています。

今年の7月より十日町地域産業保健センターに登録させていただきました。働いておられる皆様の健康相談などにお役にたてるよう精進してまいりたいと思います。よろしくお願ひ致します。

★登録保健師★ 庭野 ゆかりさん



今年の7月1日から十日町地域産業保健センターの登録保健師になりました庭野ゆかりと申します。

6年前まで上越市の企業で保健師をしていました。十日町市へ越してきてからはずっと職を離れておりましたが、再び産業保健の仕事に就く機会に恵まれ、とても嬉しく思っています。

十日町地域産業保健センターの事務所にはフットワークのいい江村さんと、しっかりした庭野さんがいて、教えて頂きながらご迷惑をかけつつも7月からいくつかの事業所を回ったり、催しに参加したり、スタートを切ることが出来ました。

これからも、もう一人の登録保健師の大口さんと共に、いろいろな作業環境の下で仕事をされている様々な年齢の方々が、良好な状態で業務を行えるよう、健康面から支援させて頂きたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひいたします。



☆☆ 平成 25 年度 十日町地域産業保健事業実績報告書 ☆☆

期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

I. 基本的事項

1. 実施機関名（委託先）：新潟県医師会十日町地域産業保健センター
2. 労働局名：十日町労働基準監督署
3. 圏域の数：2（十日町市、中魚沼郡津南町）
4. 従事者：
 - ・産業医 21 名
 - ・保健師 6 名
 - ・コーディネーター 1 名

II. 事業実績

特定健康相談

■場所別開催回数

- ・医療機関：104 回（うち、夜間・休日：0 回）
- ・事業場訪問：2 回（うち、夜間・休日：0 回）
- ・その他の施設：17 回（うち、夜間 11 回・休日 6 回）

■相談実施件数

	合 計	
	計画	実績
① 健康診断に基づく医師の意見 相談事業場数	150	151
〃 〃 意見対象労働者数	1,200	2,090
② 脳心臓疾患有リスク者保健指導	800	909
③ メンタル不調者 相談・指導	30	215
④ 長時間面接指導者数	15	13

III. 事業場訪問健康講話・産業保健指導・産業保健事業説明会

- ① 健康講話・保健指導：110 事業所・参加者 633 名
- ② メンタルヘルス 健康講話・保健指導：3 事業所・参加者 92 名
- ③ 産業保健事業所説明会：183 事業所・参加者 511 名



平成 26 年度 十日町市中魚沼郡学術講演会及び研修会の開催報告並びに予告

■ 医療従事者スキルアップ研修会 ■

第 10 回スキルアップ研修会

目的：在宅医療多職種連携について学ぶ

演題・講師：

- 十日町における現状 十日町地域振興局健康福祉部 地域保健課長代理 富井美穂 氏
- もっと身近に！在宅医療・介護の実践に向けて

新潟県医師会 副会長 吉沢浩志 先生

日時：平成 26 年 5 月 20 日(火) 18 時 30 分～

会場：十日町地域地場産業振興センタークロス 10

参加者：182 名



第 11 回スキルアップ研修会

目的：それぞれの役割を演習し、検討し、今後の活動に生かす

内容

- 紹介「新潟市南区における多職種連携の取組について」
新潟市地域包括支援センターあじかた 管理者 小山弓子 氏
- 紹介「十日町地域における取組について」
十日町市中魚沼郡医師会 副会長 山口義文 先生
- グループに分かれ 事例検討会
(助言・講評)
 - ・うおぬまケアセンター 枝村和枝 氏
 - ・魚沼市社会福祉協議会守門居宅介護支援事務所 諸橋雅枝 氏
 - ・在宅介護支援センター堀之内 角谷宗敬 氏
 - ・上村医院介護支援室 新保 努 氏
 - ・新潟市地域包括支援センターあじかた 小山弓子 氏
 - ・南区ケアプランセンター菜の花 石井哲也 氏

日時：平成 26 年 8 月 20 日(水) 18 時 30 分～

会場：十日町地域地場産業振興センタークロス 10

参加者：128 名



■ 医療従事者スキルアップ研修会 ■

第12回スキルアップ研修会

目的：在宅または特養施設での看取りに係る法医学を学ぶ

演題・講師：

● 法医学の立場から～在宅・施設で看取るために～

新潟大学大学院医歯学総合研究科

地域予防医学講座

法医学分野 教授 山内春夫 先生

日時：平成26年11月26日(火) 18時30分～

会場：十日町地域地場産業振興センタークロス10

参加者：186名



【予告】 第13回スキルアップ研修会

目的：在宅での看取りを学ぶ

演題・講師：

● いのちの不思議な物語(仮題)

～在宅ホスピス医として患者さんや家族に

寄り添い続けた約30年の経験談～

山梨の小さな緩和ケア診療所

ふじ内科クリニック 院長 内藤いづみ 先生

日時：平成27年3月23日(月) 18時30分～

会場：十日町地域地場産業振興センタークロス10

参加者：約130名程、予定



■ 十日町市中魚沼郡学術講演会 ■

日 時	平成 26 年 4 月 3 日 (木)	会場	ラポート十日町
座 長	医療法人社団 山口医院 院長 山口義文 先生		
基調講演	トラゼンタ使用例における CGM での血糖変動の評価		
講 師	新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎・膠原病内科学分野特任教授 細島康宏 先生		
特別講演	グルカゴンからみた糖尿病の病態認識と、それに対応した治療戦略		
講 師	群馬大学生体調整研究所 教授 生活習慣病解析センター長 北村忠弘 先生		
参加者	13 名		
日 時	平成 26 年 4 月 15 日 (火)	会場	ラポート十日町
座 長	医療法人社団 大熊内科医院 院長 大熊達義 先生		
特別講演	COPD の鑑別と新たな治療方法		
講 師	立川総合病院 呼吸器内科 医長 佐藤英夫 先生		
参加者	50 名		
日 時	平成 26 年 6 月 5 日 (木)	会場	ラポート十日町
座 長	十日町市中魚沼郡医師会 会長 富田 浩 先生		
特別講演	今さら聞けない脂質異常症		
講 師	津南町立 津南病院 院長 阪本琢也 先生		
参加者	34 名		
日 時	平成 26 年 6 月 17 日 (火)	会場	ラポート十日町
座 長	新潟県立松代病院 院長 鈴木善幸 先生		
特別講演	2 型糖尿病の病態と治療 ～現在の問題と今後の問題 SGLT2 阻害剤への期待～		
講 師	日本赤十字社 相模原赤十字病院 内科部長 伊藤 俊 先生		
参加者	48 名		
日 時	平成 26 年 7 月 3 日 (木)	会場	ラポート十日町
座 長	新潟県立十日町病院 内科部長 大淵雄子 先生		
特別講演	腎性貧血と鉄代謝		
講 師	小千谷総合病院 内科医長 井口 昭 先生		
参加者	33 名		
日 時	平成 26 年 9 月 4 日 (木)	会場	ラポート十日町
座 長	新潟県立十日町病院 院長 塚田芳久 先生		
特別講演	C 型肝炎新治療登場で、より重要性が増す病診連携		
講 師	新潟大学医歯学総合病院 肝疾患相談センター 特任教授 高村昌昭 先生		
参加者	33 名		

■ 十日町市中魚沼郡学術講演会 ■

日 時	平成 26 年 10 月 2 日 (木)	会場	レポート十日町
座 長	医療法人社団 山口医院 院長 山口義文 先生		
特別講演	腎保護を目指した糖尿病治療～SGLT2阻害薬を中心に～		
講 師	新潟大学大学院医歯学総合研究科 機能分子医学講座 特任教授 斎藤亮彦 先生		
参加者	14 名		
日 時	平成 26 年 10 月 21 日 (木)	会場	レポート十日町
座 長	新潟県立十日町病院 診療部長 山崎元義 先生		
特別講演	うつ病と睡眠障害		
講 師	柏崎厚生連病院 副院長 吉浜 敦 先生		
参加者	58 名		

■□■□■□ 事業報告 □■□■□

※記載(産)は十日町地域産業保健センター事業です。

日付	名 称	会 場	担当者
4/ 3 日 (木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	レポート十日町	会員
9 日 (水)	第 1 回十日町市中魚沼郡医師会三役会	医師会事務局	三役員・事務局・行政
11 日 (金)	新入社員実務基礎セミナー(産)	クロステン	上村病院健康管理部
12 日 (土)	第 140 回 臨時組合会	新潟県医師会館	関理事・浅田理事
15 日 (火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	レポート十日町	会員・事務局
16 日 (水)	産業保健指導(健康相談)(産)	十日町商工会議所	山口副会長・江村コディ
〃	第 1 回十日町地域在宅医療連携協議会	十日町保健所	山口副会長・局長
〃	中越地区医師会長協議会	長岡市	富田会長
21 日 (月)	第 3 回魚沼圏域救急医療連絡協議会	南魚沼振興局	富田会長
23 日 (水)	魚沼圏域医師会長・病院・基幹病院協議会	南魚沼市役所	富田会長・局長
24 日 (木)	(公)十日町青年会議所「地域医療講演会」	十日町商工会議所	富田会長
25 日 (金)	第 1 回十日町地域メタボリックコントロール協議会	十日町消防署	池田副会長・局長
30 日 (水)	十日町地域休日救急医療検討協議会	分庁舎 401 会議室	会員・事務局・行政
5/ 3 日 (土)	十日町きものまつり 健康相談(産)	分庁舎ぼろ広場	山口副会長他
7 日 (水)	第 1 回糖尿病ワークショップ [®] 企画委員会	十日町保健所	池田・山口副会長、局長
15 日 (木)	第 1 回十日町市在宅医療連携モデル事業 実行委員会	十日町市役所	富田会長・山口副会長他
20 日 (火)	第 10 回医療従事者スキルアップ [®] 研修会	クロステン	会員・事務局
21 日 (水)	産業保健指導 健康講話(産)	上越舗道(株)	山下先生・江村コディ
23 日 (金)	第 1 回 郡市医師会長協議会	新潟県医師会館	富田会長

日付	名 称	会 場	担 当 者
5/23日(金)	地域産業保健センターコーディネーター会議	産業保健推進センター	江村コーディネーター
26日(月)	第1回魚沼地域医療連携ネットワーク検討委員会	南魚沼市役所	富田会長
27日(火)	魚沼地区内科外科セミナー	県立十日町病院	会員
29日(木)	住民の医療参加促進事業「健康講話」	十日町市民会館	会長・事務局
6/3日(火)	平成26年度 第1回 理事会	分庁舎202会議室	役員・事務局
4日(水)	新たな財政支援制度にかかる担当理事協議会	医師会事務局	富田会長・山口副会長他
〃	十日町市児童虐待防止連絡会	十日町市役所	事務局長
5日(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
6日(金)	十日町労働基準協会 総会	クロステン	事務局長
7日(土)	新潟産業保健研究会(産)	新潟県医師会	江村コーディネーター
11日(水)	平成26年度 第1回 十日町市中魚沼郡医師会総会	クロステン	会員・事務局
14日(土)	第168回新潟県医師会定例代議員会	新潟県医師会館	池田代議員
17日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
18日(水)	第2回十日町地域在宅医療連携協議会	十日町市役所	山口副会長・事務局長
19日(木)	第1回地域糖尿病ワークショップ企画委員会	ラポート十日町	山口副会長・事務局長
23日(月)	魚沼地域医療連携ネットワーク協議会	南魚沼市役所	富田会長
24日(火)	魚沼地区内科外科セミナー	小千谷総合病院	会員
26日(木)	第163回 妻有地区症例検討会	県立十日町病院	会員
27日(金)	関東ブロックコーディネーター会議(産)	東京	江村コーディネーター
28日(土)	新潟県看護協会十日町支部 通常総会	千手コミュニティーホール	富田会長
30日(月)	十日町労働基準協会衛生部会健康講話(産)	ラポート十日町	江村コーディネーター
7/3日(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員
7日(月)	十日町市自立支援協議会 「障害福祉サービス事業所訪問」	福祉事業所	上村理事
9日(水)	在宅医療に関する講演会 (とおかまち地域ケアネット)	クロステン	会員・事務局
〃	算定基礎調査	六日町年金事務所	庭野
14日(月)	第1回介護保険運営協議会並に地域包括支援センター運営協議会及び地域密着型運営委員会	十日町市役所	大森先生
15日(火)	第1回十日町市国民保健運営協議会	十日町市役所	室岡・富田・山口(孝)先生
17日(木)	第1回十日町地域災害コーディネーターチーム会議	県立十日町病院	富田会長・事務局長
19日(土)	第141回新潟県医師会国民保健組合 組合会	新潟県医師会館	関理事・浅田理事
20日(日)	県立十日町病院改築工事安全祈願祭・起工式	県立十日町病院	富田会長
24日(木)	平成26年度胃がん検診読影検討会	十日町市役所	会員・事務局長
31日(木)	第1回十日町市自立支援協議会	十日町市役所	上村理事
8/1日(金)	三魚沼郡市医師会事務局連絡協議会	医師会事務局	事務局
6日(水)	とおかまち地域ケアネット打合せ会	十日町保健所	山口副会長・事務局長
12日(火)	十日町市在宅医療連携モデル事業 第1回 ICT 連携ツール検討班会議	十日町市役所	山口副会長
20日(水)	第11回医療従事者スキルアップ研修会	クロステン	会員・事務局

日付	名称	会場	担当者
9/ 3日(水)	十日町市在宅医療連携モデル事業 視察研修	千葉県	山口副会長
4日(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	クロステン	会員・事務局
9日(火)	十日町市在宅医療連携モデル事業 第2回 ICT 連携ツール検討班会議	十日町市役所	山口副会長
10日(水)	第2回十日町地域糖尿病ワークショップ 企画委員会	十日町保健所	山口副会長・江村コーディネーター
11日(木)	十日町市総合防災訓練 第1回調整会議	十日町市役所	江村事務局長
12日(金)	ミュキメンテナンス(株) 健康講話(産)	ミュキメンテナンス(株)	江村コーディネーター
14日(日)	日本医師会認定産業医研修会	十日町商工会議所	医師・事務局
16日(火)	住民の医療参加促進事業「乳がんについて」	十日町情報館	高木・富田・山口先生他
17日(水)	十日町地域在宅医療連携協議会	十日町市役所	山口副会長・事務局長
18日(木)	十日町市在宅医療連携モデル事業 第3回 ICT 連携ツール検討班会議	十日町市役所	山口副会長
20日(土)	新潟県災害医療コーディネーター研修会(1日目)	新潟県庁	富田会長
21日(日)	新潟県災害医療コーディネーター研修会(2日目)	新潟県庁	富田会長
9/ 25日(木)	県広域災害救急医療情報システム担当者研修会	燕三条	庭野
26日(金)	十日町市障害福祉計画策定に要するサービス見込量 調査結果に基づくサービス提供体制に関する説明会	十日町市保健センター	上村理事
29日(月)	十日町地域食育ネットワーク強化会議(産)	十日町保健所	江村コーディネーター
30日(火)	十日町産業フェスタ 2014 実行委員会(産)	十日町商工会議所	江村コーディネーター
10/ 2日(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
7日(火)	魚沼地区内科外科セミナー	県立十日町病院	会員
8日(水)	魚沼地域医療連携ネットワーク協議会 H26 第2回理事会、臨時総会及び検討委員会	南魚沼市役所	富田会長
9日(木)	第2回 理事会	分庁舎 202 会議室	役員・事務局
10日(金)	第2回十日町市防災訓練調整会議	十日町市役所	江村事務局長
11日(土)	十日町地域糖尿病ワークショップ	十日町市民会館	池田、山口副会長・事務局
18日(土)	十日町産業フェスタ 2014(産)	キナーレ	田中先生・江村コーディネーター
19日(日)	平成26年度 十日町市総合防災訓練	下条地区	山口先生・富田会長・庭野
〃	十日町産業フェスタ 2014(産)	キナーレ	山口(義)先生・江村コーディネーター
21日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
22日(水)	第3回十日町市在宅医療連携モデル事業推進会議	十日町市役所	山口副会長・江村事務局長
23日(木)	第64回 妻有地区症例検討会	県立十日町病院	会員
25日(土)	三魚沼郡市医師会連絡協議会	ラポート十日町	会長・山口副会長・局長
〃	十日町農協祭(産)	十日町農協	田中先生・江村コーディネーター
28日(火)	上村建設工業(株)健康講話(産)	上村建設工業	阪本先生・江村コーディネーター
〃	訪問看護ステーション・保健所・市との合同会議	分庁舎 201 会議室	会長・山口副会長・事務局
29日(水)	第2回 郡市医師会長協議会	新潟県医師会館	富田会長
〃	十日町地域健康づくり連絡協議会	十日町保健所	池田、山口副会長
30日(木)	連合十日町 健康講話(産)	サンクロス	江村コーディネーター

日付	名称	会場	担当者
11/4日(火)	魚沼地区内科外科セミナー	小千谷総合病院	会員
5日(水)	十日町地域自殺対策推進協議会	十日町保健所	池田副会長・江村コーディネーター
6月(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員
〃	新潟県地域医療推進機構地域連携委員会の設置についての説明	医師会事務局	富田会長・江村事務局長
〃	県議・尾身孝昭を囲む企業・団体の会	ラポート十日町	富田会長
13日(木)	第1回十日町地域医療連携協議会	分庁舎 401 会議室	役員・事務局
15日(土)	介護職員初任者研修会	十日町市社会福祉会	田中先生
18日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	クロステン	会員・事務局
19日(水)	第3回十日町地域糖尿病ワークショップ	十日町保健所	山口副会長・江村コーディネーター
〃	十日町地域難病連絡協議会	十日町保健所	山口(孝)先生
21日(金)	十日町市防災会議	十日町市役所	江村事務局長(代)
26日(水)	県医師会産業保健委員会(TV 会議)	医師会事務局	池田副会長
〃	第12回医療従事者スキルアップ研修会	クロステン	会員・事務局
27日(木)	災害医療コーディネーターチーム員研修会(DIG 訓練)	十日町保健所	会員・事務局
28日(金)	平成26年魚沼地域医療連携協議会	南魚沼地域振興局	富田会長
〃	第2回十日町市自立支援協議会	十日町市保健センター	上村理事
12/1日(月)	妻有郷被害者支援連絡協議会	十日町警察署	江村事務局長(代)
2日(火)	十日町地域感染対策検討会	十日町保健所	富田会長・江村事務局長
3日(水)	東北電力保安協会 健康講話(産)	東北電力保安協会	江村コーディネーター・庭野保健師
〃	第4回十日町地域在宅医療連携協議会	十日町市役所	山口副会長・江村事務局長
〃	第4回十日町市在宅医療連携モデル事業推進会議	十日町市役所	山口副会長・江村事務局長
4日(木)	十日町労働基準協会 健康講話(産)	クロステン	富田会長・江村コーディネーター
〃	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
〃	魚沼圏域救急医療連絡協議会 ワーキンググループ2 検討会議	南魚沼地域振興局	欠席
7日(日)	災害医療コーディネーターチーム員研修会「EMARCO 訓練」	中央公民館	会員・事務局
11日(木)	訪問看護ステーション・保健所・市役所との協議会	分庁舎 202 会議室	会長・山口副会長・事務局
12日(金)	十日町市自殺予防対策連絡会(産)	十日町市役所	江村コーディネーター
16日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
19日(金)	(株)ネオックス 保健指導(産)	十日町市役所	江村コーディネーター・大口保健師
〃	第2回介護保険運営協議会並びに地域包括支援センター運営協議会及び地域密着型運営委員会	十日町市役所	大森先生
24日(水)	第4回 十日町地域糖尿病ワークショップ 企画委員会	十日町保健所	山口副会長・江村コーディネーター

※記載(産)は十日町地域産業保健センター事業です。

故 富田三郎先生追悼の辞

本日ここに故富田三郎先生のご葬儀にあたり、先生の御霊前に額ずき、深く哀悼の意を表し、十日町市中魚沼郡医師会を代表してお別れの御言葉を申し上げます。

先生は平成六年に心筋梗塞を発症されましたが、その後順調に回復され、医師会でお会いした時には、お酒も嗜まれ、先生の若い頃将来の進路について逡巡された時期がおありであった事、そして私が医師会に入会する以前の医師会の状況や、先生の御趣味の囲碁のお話等を聞かせて頂きました。因みに囲碁の御友人のお話によりますと、先生は日本棋院の囲碁五段で、此の地域では右に出る者はいないと伺っております。

お元気になられた御姿に接し、医師会員一同安堵しておりました。しかし再び病魔に襲われ平成二十六年六月脳出血を発症されました。若先生の浩先生はじめ、御家族様の献身的な介護をお受けになられ、在宅で療養されておられました。奇跡は再び起こらず計らずも天に召されてしまいました。先生にお会いし、再びお話を聞かせて頂くことが叶わなくなりましたことは、痛恨の極みであり如何ともする事は出来ません。

顧みますれば、先生は旧制新潟高校を経て、旧制新潟医科大学を御卒業になり、昭和二十五年から県立六日町病院、中之島国保直営診療所そして公立八幡病院等で研鑽を積み、昭和三十三年地元にもどられ御開業されました。昭和三十四年から四十二年間の長期に渡り市の予防接種事業に協力され、昭和四十二年から二十八年間、市の胃ガン読影業務に従事され、一貫して間接フィルムの読影を担当し、胃癌の早期発見に取り組まれました。更に乳幼児健診にも精力的に取り組まれ、乳幼児の疾病予防や成人病予防など地域予防医療の向上に長年にわたり積極的に寄与されました。また二箇所の保育園の嘱託医を三十年間、四箇所の学校医を二十九年間担当され、山間地などの園児・児童の健診および養護教諭等の指導・相談役として、学校保健活動にも精力的に尽くされました。昭和三十八年当医師会の理事に就任されました。副会長を経て昭和五十二年から二期四年間にわたり会長を務められました。さらに十日町市国保運営協議会委員を長年に渡りお努めになられ、平成三年・十日町市市民褒賞、平成八年・新潟県成人病予防協会会長表彰、同年・日本公衆衛生協会会長表彰、平成九年・新潟県知事表彰、平成十年・厚生労働大臣表彰、以上の数々の表彰を受けられました。さらに急患があれば昼夜を問わず粉骨砕身地域、僻地の診療に挺身されました。地域医療の発展のため大変ご尽力くださいましたその御功績に対し、平成二十四年度の旭日双光章を叙勲されました。



古いお話になりますが、昭和四十三年私の父が医師会長に推薦いただいた時に、医政に御見識の高い富田先生、山口誠士先生から御支援御協力を頂き、大任を果たせた事を父から聞いています。先生には大変お世話になりました。先生との名残は、つきませんが、そろそろお別れしなければなりません。先生どうぞ御安心ください。若先生の浩先生は当医師会々長として、硬直化している地域医療体制にメスを入れ、率先して改革に取り組んでおられます。その成果は、救急医療体制、地域医療・介護システム等に徐々に改善の兆しが現れてきております。先生には後顧の憂いは無いものと拝察いたしますが、御親族の皆様方の御心痛を察するに、お慰めする言葉もございません。ただ先生の御冥福をお祈りするばかりでございます。

富田先生、大変お世話になりました。本当にお疲れ様でございました。これからは在天の光となられ、天国から御親族様、地域の医療そして当医師会をお見守り下さい。

合掌

平成二十六年七月二十七日

一般社団法人 十日町市中魚沼郡医師会 副会長 池田 透



故 山口誠士先生 追悼の辞

慎んで、山口誠士先生のご霊前に、十日町市中魚沼郡医師会を代表いたしまして、お別れの言葉を申し上げます。

先生は、一昨年夏に病にお倒れになるも、順調にご回復されて、リハビリにも励まれているとお聞きしていましたが、この度の突然の悲報に接し、本当に残念でなりません。ご家族・ご親族様の胸中をお察いたします時、誠に痛恨の極みであります。

顧みますと、先生は昭和二十三年に新潟医科大学をご卒業し、長岡赤十字病院等で研鑽を積まれた後、昭和二十九年に故郷の下条地区に山口医院をご開業されました。以来多数の患者さんを診療し、昼夜を問わず往診するなどして、地域医療に貢献されました。また、複数の幼稚園や小・中学校の管理医師を務められたり、市の国民健康保険運営協議会委員に長く就任されるなど、地域の保健行政にも深く関わられました。当医師会に於いても二十二年の長きに渡り会長・副会長等の要職を歴任され、リーダーとして数々の事業を企画・実現されております。例えば、現在の休日一次救急制度の前身である休日在宅当番医制度をどの県内郡市医師会にも先駆けて開始されました。胃がん死亡の減少をめざして三魚沼にまたがる魚沼胃集検の設立に奔走されました。医師の資質向上を図るための学術講演会、内科外科症例検討会、胃がん検診検討会も定期開催されました。病院群二次救急輪番制度も発足させました。その他にも三魚沼医師会連携協議会を設置されるなど、その業績は多岐に渡ります。また医療のみならず、福祉の分野でも深いご見識を持って活躍され、現在の十日町福祉会の前身となる寿福祉会を設立。時には私財を投げ打って、住民の福祉の向上のためにご尽力されました。

このような地域に対する多大のご貢献が認められ、平成二十年十一月、先生が八十三歳になられた時に旭日双光章受賞の荣誉に浴されました。当医師会でもささやかなお祝いの宴を催させていただきましたが、お祝いの品としてお贈りしました電子聴診器を手に、「これでまた診察がやり易くなる」と嬉しそうに語られた姿が忘れられません。また私が医師会の会合で休日救急医療体制を見直したいとお話した時にも、「思った通りにやってみてください」と励ましていただきました。現在、十日町医療圏では高齢化が進み、医師や看護師不足も深刻です。その中で当医師会は休日・夜間の救急医療の改革や、医療と介護との連携を深めようと、模索を続けております。考えてみますと、休日一次救急も、医療と介護・福祉の連携も、すでに四十年前も前に先生が始められたことに他なりません。残念ながら、もはや先生からご指導を賜ることはかないませんが、先生の掲げた理想・理

念の実現を目指して、医師会員一同鋭意努力して参りますこととお誓い申し上げます。

先生は数多くの偉業を成し遂げられました。思い残すことはないものと拝察いたします。もし心残りがお有りとするれば、それは長年苦楽を共にされた奥様の事であり、ご家族の事と思います。でもご心配には及びません。ご息子の孝太郎先生を中心にご家族の皆さんが団結して、必ずや先生を亡くされた悲しみを克服されることであらましよう。だから先生、今はゆっくりお休みください。けれど先生の事ですから、きっと新しい世界で、次は何を始めようか、と思いを巡らせている気がいたします。

山口誠士先生、長い間本当にありがとうございました。今後は在天の星となられ、十日町と魚沼の医療・保健・福祉をお見守り下さいますようお願い申し上げます。

合掌

平成二十六年十二月七日

一般社団法人 十日町市中魚沼郡医師会 代表理事 富田 浩

会員消息

- ◎入会 阪本 琢也 先生（津南町立津南病院）
 林 一男 先生（希望の里 松涛園）
 小菅 直人 先生（新潟県立十日町病院）
- ◎退会 草野 仁也 先生（希望の里 松涛園）
 富田 三郎 先生
 川村 正 先生（一般財団法人 上村病院）
 幸田 敦 先生（新潟県立十日町病院）
 山口 誠士 先生
- ◎移動 塚田 芳久 先生（会員区分の変更）
 山口 義文 先生（施設所在地表示変更：十日町市袋町中 208）
 高橋 修一 先生（施設所在地表示変更：十日町市本町 3 丁目 362 プラザコアビル）
 登坂健二郎 先生（自宅所在地表示変更）

会員訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

富田 三郎 先生 平成 26 年 7 月 25 日死亡 享年 90 歳

山口 誠士 先生 平成 26 年 12 月 5 日死亡 享年 90 歳

■□■ 編集後記 ■□■

師走ならぬ大雪でサンタさんのそりも走りやすくなった年末です。

今回の会報は、巻頭に高橋先生のお言葉をいただきました。(Ein, Zwei, Drei) の掛け声は、入局当時私も諸先輩から宴会の時、お聞きしました。日本が元気いっぱい時代だったのだろうと感じ入りました。

仲先生、日々地域医療にご貢献頭が下がります。また、富田先生は会長として、獅子奮迅大車輪の活躍で本当に感謝いたしております。

本年は、当医師会に多大な功績を残された巨星、富田三郎先生と山口誠士先生が鬼籍に入られました。お二人とも、いつもやさしく未熟者の私にお声をかけていただいたことがたびたびあり、恐縮しておりました。お二人の笑顔をもう一度拝見したく、寂しい思いであります。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

2014 年を表す漢字は、税であったとか。ほかの候補も、嘘、偽、涙などあまり明るい話が少なかったような一年であったかもしれません。

来年こそは当地区も、また日本も、人の心が和らぐような話題が多い一年となることを期待し、またお互い努力して夢と希望をかなえる年としたいなあと思っております。

今年一年、皆様、本当に有難うございました。よいお年をお迎えください。

(広報担当理事 関 真人)

■□■

発行：一般社団法人十日町市中魚沼郡医師会

〒948-0082

新潟県十日町市本町 2 丁目 226 番地 1

本町分庁舎 2 階

TEL 025(752)3606 ・ FAX 025(750)1422

E-mail to.na-ishikai@luck.ocn.ne.jp